



はだ しゅんすけ
羽田 俊介
水曜会
(70分)

兼業・副業による人材の活用は

問 市内企業での活用促進に向けた本市の取り組みは。

答 今年7月、55社の企業が参加した兼業・副業人材活用シンポジウムや人材との交流会を開催し、経営課題の解決や企業活動の高度化を進めるために活用したいとの声もいただいた。10月には市内企業と人材をマッチングする交流会を開催予定である。

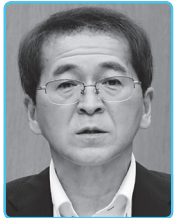
公共下水道の整備は

問 進捗と今後の進め方は。

答 昨年度末の人口普及率は76.1%である。市内中心部の整備はおおむね完了し未整備区域が縮小したことで、今後は事業の中心が長寿命化、耐震化等の更新へシフトしていく。新規整備は、大規模な整備を計画的に進め、他の未整備地域は事業の効率性や早期に下水道への接続が見込まれる等の状況も踏まえながら対応する。



デザインマンホール



いしだ みおる
石田 実
水曜会
(70分)

坪生幼稚園の休園は

問 ①本市の公立幼稚園の園児数の推移や今後の推計も踏まえ、休園するといふ判断に至った理由は。
②休園後の建物や土地の利活用は。

答 ①公立幼稚園全体の園児数は2012年度の910人から2022年度は290人と、10年前と比較して約70%減少している。一方、坪生幼稚園の園児数は2012年度の84人から2022年度は14人と、約85%減少しているとともに、坪生学区の就学前児童数は今後も減少していくと推計している。施設も築後45年経過して老朽化が進行し、現在の耐震基準を満たしていない。そのため、今後、集団保育機能の維持が困難なこと、学区内には受け皿となり得る私立就学前施設が3施設あることなどから今年度末をもって休園することとした。
②昨年度策定した「遊休施設の利活用等実施方針」に基づき、今後検討していく。



現在の坪生幼稚園園舎



きむら もとこ
木村 素子
水曜会
(70分)

若者支援への取り組みは

問 ①中学校卒業後のヤングケアラー[※]の把握と支援は。
②居場所支援は。

答 ①中学校卒業までに把握している事例は卒業後も必要に応じて継続的に支援している。若者の相談は青少年センターで受けているが、ヤングケアラーの相談は少なく、周知、啓発に努めている。また、相談しやすい手法や場所を検討する必要もあると考える。今後も、行政、学校、地域など関係機関で連携した支援を行い、子どもたちが人生でその時期にしかできない経験を等しく享受できる環境づくりに努める。
②学校や家庭以外にも居場所があることは若者の成長のために望ましいことである。現在、若者が利用しやすい青少年センターとするため、福山駅周辺への移転を検討している。移転先において若者が居心地の良い環境を整備していく。



※ヤングケアラー：一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている、18歳未満の子ども